副運責がお届けする伊賀インカレ実行委員紹介①

特集：「運営役員メンバーに聞く」

－執筆－

伊賀インカレ副運営責任者：藤本 佳完（フジモト・ヨシマサ）　2002 年度大阪市立大学卒業

伊賀インカレ副運営責任者の藤本です。

副運責がお届けする伊賀インカレ実行委員紹介と題してお届けするんですが、字を見ての通り、この特集は、仕事や研究の合間をぬって運営準備をしている実行委員に対し、紹介とともに質問形式によりナマの声をお届けしようとする特集です。

「インカレの運営なんてシンドイわぁ」、「インカレ運営なんて嫌やわぁ」というお気持ちを持っている方も沢山いると思います。敬遠されるのも分かります。ですが、本稿で「インカレ運営ってシンドいけどめっちゃ楽しいでぇ～」、「運営者は忙しい中でも運営頑張ってんねんでぇ～」、ってのをもっと知ってもらうことで、インカレを楽しんでいただけたら、更にはちょっとでもインカレ運営に興味を持って頂けたらと思います。

なお、本稿は、毎月違った特集を組んでお届けする予定でいます。今月号では、特集：「運営役員メンバーに聞く」と題しまして、実行委員長、運営責任者、渉外責任者、広報責任者、人事責任者、宿泊・輸送担当にお話を伺いました。長めになりましたが、どうぞお楽しみ下さい。

運営役員メンバーに聞く：その①
実行委員長：遠山 文規氏（東京大学卒業）

Q1.インカレの運営は通常の大会と違い、規模が大きく複雑ですが、運営準備する中で、どういう点に一番気をつけていますか？

規模の大きさという点では運営者が滞りなく業務をこなせるように調整することに気をつけています。関係者の人数が増えると、それだけ責任分担があやふやになったり連絡とかがうまくいかなかったりするので、そこを明確化していくようにしています。

Q2.運営でどういう時が一番辛く、どういう時にやりがいを感じますか？

辛いのは、自分の時間を作るのが大変なときに時間のかかる仕事をこなさねばならないとき。やりがいを感じるのは、前例がないことをうまくまとめて実現していくときかな？

Q4.数々のインカレ運営の経験をされていますが、その醍醐味を教えてください。

事前準備としては、参加者の期待という形のないものからいろいろなものができていく過程が面白いです。当日近くになってからは、何ヶ月もかけて準備したものをたった３日で全部使い切るという「消費の楽しみ」です。

Q3.伊賀インカレ当日に向けての意気込みを。

できるかぎりの準備をして、お待ちしております。

運営役員メンバーに聞く：その②
運営責任者：西村 宏久氏（京都大学卒業）

Q1.卒業すると社会人になり、院生になり色々忙しくなるんですが、その中でインカレ運営の為にどのように時間を有効利用していますか？

むしろ研究に行き詰った時の息抜きができるので助かっている面のほうが多い。一番の工夫としては運営者の多い京都でフィールドワークを行った所かな？　指導教官をうまく騙して、京都に予定よりも 3 ヶ月も多く滞在しました。その時に多くの仕事がはかどりました。

Q2.インカレの運営は通常の大会と違い、規模が大きく複雑で、運営責任者は大会全部のことを把握する必要がありますが、運営準備する中で、どういう時が一番辛く、どういう時にやりがいを感じますか？

通常の大会に比べ多少複雑で、一人で全てを把握することは難しいですが、うまく分業することによってほとんど負担を感じておりません。また、ノウハウもありますし、上に優秀な大目付がいるので困った時はすぐに相談、他の人も皆優秀なので助かっています。辛いのは私の下で働いている人（？）　無能な私としては、優秀な人を動かせるのは、かなり楽しいです。

Q3.伊賀インカレ当日に向けての意気込みを。

当日は、頭はフル稼働していてもこころには余裕をもって冷静に様々なトラブルに対処したいですね。個人的に一番危惧しているのは後輩の活躍に熱くなって本来の仕事場を心も体も離れてしまうこと…。でもそのくらい熱くさせてくれる大会になったら嬉しい！　科学や技術は多くの人の積み重ねですが、スポーツはその人の人生、チームの積み重ねですから、何度見ても新鮮な感動を受けることができますよね。いまからワクワクしています。（脱線して申し訳ありません…）（←全然いいっすよ!! by 副運責）

運営役員メンバーに聞く：その③
渉外責任者：加納 尚子氏（京都女子大学卒業）

Q1.渉外責任者という立場は、裏方的存在でありますが、渉外をする中で、どういう時が一番辛く、どういう時にやりがいを感じますか？

やはりまだマイナー競技ということもあって知名度がなく、どんなに説明しても相手に理解されにくく、興味を持ってもらいにくいことが辛い点ですが、それだけに、興味をもっていただいたり、こちらの要望などに快く応じていただいたときなどはやりがいを感じます。

Q2.数々のインカレ運営の経験をされていますが、その醍醐味を教えてください。

卒業後はすべての学生が自分の後輩です。一生懸命走ってくれる姿を見るのが一番の喜びです。主役を降りた後でも、インカレを作り上げるやりがいと達成感がありますね。

Q3.伊賀インカレ当日に向けての意気込みを。

表にも裏にも、まったく順調かつスムーズな運営！をめざします。

運営役員メンバーに聞く：その④
広報責任者：前田 哲史氏（京都大学卒業）

Q1.広報責任者という立場にあり、通常の大会とは違って広報すべきことが多岐に渡り、気が抜けませんが、どういう点に一番気をつけていますか？

まず最も気をつけていることは、様々な情報（競技情報を含む）のコントロールです。実行委員会内部では決まっている事でも外部に漏らしては行けない情報が多くあるので大変です。それとやはり出来るだけ多くの参加者・観戦者に来てもらいたいので、企画部門、併設大会部門と協力して魅力ある大会であることをさらにアピールしていきたいです。

Q2.卒業すると社会人になり、院生になり色々忙しくなるんですが、その中でインカレ運営準備の為にどのように時間を有効利用していますか？

時間が取れるときに一気にやる様にしています。忙しくてできなそうな時は早めに表明して他の人に手伝ってもらう。

Q3.伊賀インカレ当日に向けての意気込みを。

当日は学生の皆さんが主役なので裏方として盛り上げていくのみです。一人一人の思い出に残るような良いインカレになって欲しいと思います。

運営役員メンバーに聞く：その⑤
人事責任者：宮本 光一朗氏（京都大学卒業）

Q1.裏方中の裏方であり、運責のように全体を把握した上で人事配置をする必要があり、かつ当日運営者を含め、運営者を増やす必要がありますが、ズバリ、今の悩みのタネは？

自分自身に時間がないことです。
「仕事・OL ばかり！」と彼女にもスネられっぱなしです（笑）
とりあえず１月以降は早く帰宅することに専心します。

Q2.インカレ卒業すると社会人になり、院生になり色々忙しくなるんですが、その中でインカレ運営の為にどのように時間を有効利用していますか？

とりあえず空いた時間を見繕い一気に処理するのみです。

Q3.初めての運営で色々とまどいがあるとは思いますが、それをどのように乗り切り楽しさとしていますか？

OL 界は世界が狭いといえど、なかなか喋ったことすらない人も多いのも事実。今回の運営でネットワークが広がれば言うことはありません。皆さんもっと運営に手を挙げてくださいね！！

運営役員メンバーに聞く：その⑥
宿泊・輸送担当：原 健太氏（京都大学卒業）

Q1.宿泊・輸送チーフとして、日本旅行さんと交渉され、学生への宿の斡旋をされていますが、どういう時が一番辛く、どういう時にやりがいを感じますか？

交渉というより橋渡し役ですね。こちらの言い分がうまく通せない場合は力不足を感じますし、解決の方向が見えればほっとします。交渉事に私情を持ち込むつもりはありませんが、今の会社で営業をやっている関係で、親近感を覚えることもあります。

Q2.初めての運営であり、色々とまどいがあるとは思いますが、それをどのように乗り切り、楽しさとしていますか？

時間とモチベーションのやりくりは大変ですが、それだけに大会当日どんなドラマが繰り広げられるかと思うと、まるで我が事のようにわくわくします。

Q3.ズバリ今の悩みのタネは？

仕事。恋。時間。金。腹。社会人一年目だけに学生時代とのギャップが大きく、悩ましいことだらけ。まず前二者の相関関係について詳述すると、何においても優先されるべきは（以下略）

最後に副運責から…

このメンバーを見ると、どうも運営幹部には京大卒がズラーっと並んでいるように感じますね。
それにしても、僕自身も思うんですが、やりがいという点では加納さんの意見と全く一緒です。僕自身も、卒業した大学の後輩は勿論のこと、今大学院として行っている大学や全くの他大学の選手も応援したくなります。実際下山大会のセレでは思わず応援してしまいましたし（笑）。僕も彼ら（彼女ら）の一生懸命走ってくれる姿を見ると一所懸命運営準備した甲斐があるように感じますね。また原さんの意見のように、やりくりが大変なだけにどんなドラマが待っているか、また達成感は大きいでしょうね。楽しみです。
他の人の意見を見ても後輩が一生懸命に走ってくれる、それを実現させるのがやりがいと感じているようですね。
今月の特集、どうでしたか？　少し長めの本稿でしたが、インカレ運営の大変さと共にその楽しさを十分お分かり頂ける内容だったではないでしょうか？
来月号は、特集：「企画系及び併設運営メンバーに聞く」と題しまして、企画責任者を始め、演出担当、学連・式典担当、併設担当、トレイル O、そして今インカレの目玉の大会である MTB-O 担当にお話を伺う予定でいます。乞うご期待下さい!!

副運責がお届けする青山にまつわるコラム①

「東青山～西青山間の新青山トンネルについて」

－執筆－
伊賀インカレ副運営責任者：藤本 佳完（フジモト・ヨシマサ）　２００２年度大阪市立大学卒業

大会当日、選手の皆さんは宿泊地から会場までの移動では近鉄電車を使うことになります。

その途中で東青山駅～西青山駅間はすごーく長いトンネルを抜けます。このトンネルは**「新青山トンネル」**と呼ばれています。この新青山トンネルは、昭和 50 年に完成した比較的新しいトンネルです。それ以前はこの地域一帯の青山峠は交通の難所で、近鉄電車は迂回する形で走っていました。しかも、今のように複線（両方向が自由に行き違いが出来る）ではなく単線（両方向が自由に行き違い出来ない）でした。しかし、このような長いトンネルにより短時間で高速で往来できる背景にはこれにまつわる鉄道事故史上悲惨な事故、俗に言う**「青山トンネル事故」**を忘れてはなりません。

写真 1　旧青山トンネル

鉄道事故史上最も悲惨な事故が起きたのは、昭和 47 年 10 月 25 日 16:30 頃、原因列車は大阪上本町発名古屋行の特急列車でした。

列車は定刻通り、青山峠に差し掛かり、一つ目のトンネル**「（旧）青山トンネル」**を走行していました。すると、ATS という自動で列車制御する装置が当日は故障しており、その誤作動で列車は緊急停止しました。その ATS を解除しようとしても解除できず、運転手は列車から降りてブレーキ点検をしました。その時にブレーキコックを手動で操作し、この時点でエアーがブレーキに供給されない状態、すなわちブレーキがかからない状態になりました。運転手はそのまま運転台に戻り、緊急停止により現場へ駆けつけた当時の旧東青山駅の助役が、運転手に連絡せずに発車させてしまいました。運転手がブレーキを緩めると途端に、列車が勾配を下りはじめ、ノーブレーキ状態となり暴走をし始めました。この先の列車行き違いの為に設けている信号所も 120km の猛スピードで突破し、**「惣谷トンネル」**に差し掛かった時でした。反対方向からは賢島発難波・京都行きの列車がやってきていて、前方の異常を察知して急ブレーキをかけたのですが、間に合わず時速数十 km で正面衝突するという大事故が起こってしました。これが俗に言う**「青山トンネル事故」**です。

この事故により、死者は 25 名（乗務員 3 名)、負傷者 255 名に上り、当時の鉄道事故史上最も悲惨な事故となりました。この事故の後に青山峠の完全複線化が決定され、昭和 50 年に今の新青山トンネルが日の目を見ることになりました。また、この事故がその後の鉄道技術に対し教訓として多いに貢献して今の鉄道に至っています。近鉄では後世に残そうという現われか、今でも年に一度は供養をしているそうです。当然のことですが、現在は信号設備もしっかりし、安心してご利用いただけるとのことです。

写真 2　現在の新青山トンネル

関西や中部地方に住んでいる人は必ずと言っていい程お世話になる近鉄電車。普段何気なく乗る電車、その中でも名阪連絡線の裏にはこのような重い歴史があるのです。皆さんもこのような歴史の重みというものを感じてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、この事故でお亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈り致します。

※　史実をお伝えしたつもりですが、正確な史実を伝える資料が少ないため、ホームページの情報に頼り、もしかしたら史実と違う点があるかもしれません。その点はご容赦下さい。